日時	平成30年2月27日(火)15時30分~17時00分
場所	本校大会議室(東館2階)
出席者	委員:田中保和会長(議長)、阪口葉子、串田ゆか、乾昭彦、橋本明子事務局:千葉校長、森教頭、中角首席、笠松首席、竹島事務長、波多野指導教諭、新井教諭、三好教諭、植田教諭、竹中教諭、宮﨑教諭、秦教諭、樫本教諭、田中有教諭、末吉教諭、西岡(記録)
<b>公</b> 第	1. 校長挨拶 2. 報告 3. 協議 4. その他
議題	本年度の取り組みの評価と来年度の改善に向けて
協議要旨	<ul> <li>○「平成 29 年度学校評価」について(報告) &lt; 千葉校長&gt;</li> <li>1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援について</li> <li>2 「豊かでたくましい人間性(人間力)」の育成について</li> <li>3 「学校力」の向上(学校運営の効率化)について</li> <li>○「平成 30 年度学校経営計画」について</li> <li>PDCA サイクルの Action(教育活動の取組重点)を改訂</li> <li>○「学校運営協議会」への移行について</li> </ul>
	<ul> <li>○「平成 29 年度学校教育自己診断(畷高アンケート)集計結果」について&lt;首席&gt;</li> <li>○「平成 29 年度 進路状況」について&lt;首席&gt;推薦入試について</li> <li>○「平成 29 年度 GL 部の活動報告」について<gl部部長></gl部部長></li> <li>1 国際交流事業(12月以降のもの)について報告</li> <li>2 探究活動について</li> <li>3 その他の GL 部活動について</li> </ul>
	委員からの意見・質問](→の後は回答) [委員]説明を聴き、よくわかった。これだけのことをやっている中で、働き方改革は難しいと思う。平成 29 年度計画の自己評価の欄で、2年目教員のメンター制度について、アンケート評価が 100%なのに、◎でなく○なのはなぜか。 → (校長)、初任者からの評価は高いが、制度としてまだ充実していないため。

[委員] 平成 30 年度の取組重点について、英語の活用は「確かな学力」の 育成の項目にあるが、平成 29 年度では「豊かでたくましい人間性(人間力)」 の育成の項目にあった。その移動はなぜか。

→ (校長)、英語運用能力はどこにでも関わっていくが、学力としてとらえ たい。

## [委員] (意見として)

- ・英語教育に関連して、先日に関大で行われた研修に参加したが、頭の中が アクティブになっていることがすごくわかった。数字だけでは表れない部 分もあるのではないか。
- ・自己評価が高くなることはなかなかないなかで、おおむね 90%以上の肯定評価であることはすばらしい。

[委員] ワーキンググループや支援検討会議ではどのようなことをやったのか。

- → (校長) ケース会議で様々に対応する中、特に合理的配慮を要する生徒は個別ケースでなく、学校として公平に評価していくためにも、管理職からコーディネーター、担任らで対応を考える。しかし、一律にせず、その生徒の思いも汲んでいくようにする。単位に関して、必要であれば、ここから各教科におろしていき、フレキシブルに対応している。校長が決済したものは、学校としてオーソライズされたものとして、全体で動いていく。
  [委員] (保護者の立場で印象に残ったこととして)
- ・発表力が高い。入学当初の文化祭が印象的。成功も失敗も糧だと考えている学校。これは特色入試に生きてくるのではないか。
- ・多様な尺度から子どもを評価していってほしい。大変なのもわかるが、保 護者としてはそれを強く望んでいる。
- ・アンケートについて。保護者が、授業がわかりづらいと子どもがいうとあるのは、子どもは学校のせいにすると楽だから、親の前ではそういうのではないだろうか。また、生徒の負担については、人間力向上のためにはこれくらい乗り越えられる力をつけてほしい。社会に出たらもっと忙しくなる。
- ・ 進路実績に地方の国公立大学の名前が多く出ているのは嬉しく、伸ばして ほしい。
- ・GL 部の活動、ドイツからのホームステイの受け入れ先が決まって本当に 良かった。
- ・課題研究の合同発表会を見て、「未完成の完成」ということを強く思った。 だからこそ、大学に行きたい、そこで研究したいという思いが出てくるの ではないか。高校の段階で「課題を見つける」ということに力を入れてい

ることは素晴らしい。

・保護者協力はどんどん言ってほしい。保護者が学校のことを知るきっかけ になる。

## [委員] (意見として)

・全方向に努力していることは素晴らしい。

[委員] 忙しい中で、先生と生徒が面談する時間はどれくらいとれているか。

→ (教頭) 廊下ですれ違ったときに声をかけたり、夜に電話をしたり、昼食 の時間にも、いつも生徒対応をしてコミュニケーションをとっている。悩 み相談や質問対応もよくしている。

## 「委員](意見として)

- ・網羅的にされているのは素晴らしい。合同発表会で手書きと印刷が混在し たのはどうしてか。
- → (教諭)、教員がプリントを行うため、期限にズレを作り、生徒が選択する形にした。

## (意見として)

・学会などではパワポ資料を貼っただけのものもある。そういったものを写真で見せて多様性を示すこともできる。

[委員] レポートや論文はメールで提出か、手書きか。

→ (教諭) 文字をたくさん書かせるため、手書きで。

[委員] 平成 29 年度の課題研究の満足度が2年生で下がっている。これを どのように見ているか。

- → (校長)、2年はあらゆる面で自己評価が下がる学年である。課題研究を 良かったと思うには目標が下がってしまうこともあるのか。やればやるほ ど忙しくなり、自己評価は下がってしまう。
- → (教諭)、アンケートをとる時期と論文提出日が近く、どうしても忙しさ に評価は下がる。発表会が終わったタイミングならば。簡略化するなどし て達成感をもたせるようにするなど、考えたい。

[委員]研究授業について。20人もの教員が来たというが、そのための特別な時間割を組んだのか。

→ (校長)、そうではない。これから特別編成などすべきかとは思うが、授業時間が切迫しており、これ以上の圧縮には抵抗がある。

[委員] アンケートで65分授業に関して評価が高くないがどう思うか。

→ (校長)、生徒は、慣れてきたらそれでよいという子が多い。私としては 50分にしたい思いもあるが。

「委員」(意見として)

・委員のご発言から、授業がわかりづらくとも、そこで自分が考え、協力し

て解決することが社会に出てからの力になると思う。 [委員] 平成30年度は働き方改革を。スクラップできるところはしていき ましょう。 (1) 大阪府立四條畷高等学校 学校協議会 実施要項 (2)「平成29年度の取組と課題及び平成30年度の取組重点(案)」 (3)「平成29年度学校経営計画及び学校評価(案)」 (4)「平成30年度学校経営計画及び学校評価(案)」 (5)「平成29年度グローバルリーダーズハイスクール(GLHS)評価シ ート」 (6)「平成29年度取組評価と来年度の改善に向けて」資料 ・「第1学年 英語クラスの選択について」 ・「学校運営協議会について」 •「学校教育自己診断集計結果」 •「推薦入学試験結果(過去3年分)」 ・「グローバルリーダーズ部活動報告」 「スーパーサイエンスハイスクール実施計画」

・「平成30年度 府立学校に対する指示事項」